— イギリスへの旅から 第1信 —

香 港 の 蝶 相

Singapore にて 柴 谷 篤 弘

1955年8月20から27日まで，香港に滞在する機会をえて，三度ばかり採集に出かけた．その印象記はべつに発表するが，こゝでは，香港の蝶相が，日本のそれとどのようにちがうかということについて，気のついたことを記そうとおもう．

200メートル以下の高さのビクトリア・ピークに二度採集に出かけ，そのあと九龍（大陸側）の裏山へ一度採集にいった．これらの山地は，全体の景観としては，日本でわれわれが見なれているのとそれほど変らない．海岸ぞいの山々には，小さな松が多かったが，私が採集に出かけたあたりは，松はほとんどまったく見かけない．アカシヤや，カツラに似てもっと大きな葉が対生的についた落葉樹を多く見かけたが，山は大体常緑照葉樹林である．しかし日本でみかけるようなカシやシイやアシビの林よりは，いくらかうるおいがある．樹木の種類は，いずれも日本で見たのとは少しずつちがっている．咲いている花も，大部分は見たことのないものばかりだ．それを度外視すると，全体の感じは日本の山によく似ている．というのは，クヌギやナラこそないけれども，多くの常緑照葉樹は，若々しい葉をつけ，陽の光にも明るく透けるような感じである．だから，あまり照葉樹林にいるような感じはしないことが多い．日本の普通の低い山—大都市の郊外の山々—から，松と杉とをとり去ったあとを想像すればよかろう．そういう山や林，あるいは明るい草地などのあいだをさまよい，時には茂みのなかに体をさし入れもして，私は蝶をとって歩いた．そうしていると，あまり日本から遠く離れている気がしなかった．

しかし蝶ははじめは目新しかった．ほとんどがはじめて見る種類なのだから．しかし慣れるにつれて，わたしは，香港の蝶相が日本とちがう点よりは，いかに日本のそれに本質的に似かよっているかという点に気づき，さらに進んでは，かって今西錦司博士と協同でものした類型学的生物相の研究を思いおこして，当時わたしのえた結論を，今度の新しい経験に照しあわせて見るのだった．

香港といえば，びっくりするほど蝶がたくさんいてとるのにこまるくらいかと思ったりしていたが，いざ来て見ると，それほどでもない．むしろ日本では当然いそうにおもえるところに，蝶の影を見ないことさえあった．もちろん，いるところには一度に5,6種類もが活動していて，応接にこまることもあるにはあったが，全体として非常に豊富とは思えない．種類の数が多いわりに個体数の方はそれほど多くはない．種類の数はたしかにおおい．一時季に都市の周辺で，三回の採集で40種以上とったのだから*

まづ気のつくのはアゲハの多いこと．これは種類も個体数も豊富である．まずルリモンアゲハ，シロオビアゲハ，それにコモンタイマイなど，見なれぬものが沢山いるが，なれるに従って，それらの蝶が，日本にいるなかまをしきりにわたしに思いおこさせた．

日本で，大都市の郊外へ採集にゆくとしよう．時季がよければ，ふつうにいるのはアゲハとクロアゲハとアオスジアゲハ，それにキアゲハとカラスアゲハなど．オナガアゲハとモンキアゲハはやゝ特殊になるだろうか．それに対して香港では，ちようどアゲハぐらいの普通さでコモンタイマイがいる．なかなか速くとぶが，明るい色調はアゲハを想い出させる．それにクロアゲハのかわりにシロオビアゲハ，カラスアゲハのかわりにルリモンアゲハ．アオスジアゲハはちゃんとそのままいる．それに加えてタイワンモンキアゲハ（これはごく普通だ），ナガサキアゲハ，オナシモンキアゲハ，オナシアゲハなどが見られるのが香港のアゲハである．すくなくともわたしの訪れた時期の．

シロチョウの仲間を見ようか．個体数はむやみに多くはないが，モンシロチョウのかわりにタイワンモンシロチョウがいる．キチョウの類もいる．モンキチョウやスジボソヤマキチョウのかわりに *Catopsilia* やその他のやゝ大型のシロチョウの類．これらは意外に敏活で，かなりの高度を相当直線的に揚々ととびすぎる点，ちよっと感じがかわってはいるが．

* これは九龍を含めての話．香港大学動物学教室の BARKER 教授によると，蝶は68種という．香港島だけのものか大陸側も含めたものかはききおとした．

シヤノメチョウの仲間を見よう．道ばたの草むらには例によって*Ypthima* (*baldus* だろうと思うが *argus* とよく似ている)．これはごく普通にいる．樹間のおぐらいところではちやんと2種の *Mycalesis* がおり，また *Lethe* 類の代表者としてシロオビクロヒカゲ．コノマチョウに似た一種もいる．だから大体網にいれるまでは，日本での感じとそれほどちがわないのだ．

タテハチョウを見よう．キタテハのかわりにはキミスジがいる．*Nymphalis* の類（たとえばルリタテハなど）や *Vanessa* (たとえばアカタテハ）のかわりには *Precis* がいる．*Neptis* にはコミスジにかわるリュウキュウミスジ，ミスジチョウにかわるチョウセンミスジ（?）がいる．イチモンジチョウのかわりには *Tacoraea* の類というわけである．ゴマダラチョウはちやんとアカホシゴマダラにおきかえられている．ただここにはヒョウモンチョウの類がいない．そのかわり草原には雄大にとぶ *Hypolimnas* の類を見かけた．

シジミチョウだっておなじである．ヤマトシジミにそっくりなのがいる．ルリシジミの類もツバメシジミの類もちやんといる．ベニシジミはいないが，いざとなればウラフチベニシジミが出てくるだろう．こんどの私の旅行では見なかったが．ウラナミシジミのかわりには *Nakaduba* の類がいる．そしてトラフシジミのかわりにはヒイロシジミが．

アカシジミやミズイロオナガシジミのようないわゆる *Zephyrus* ものはいないし，あの感じは何が代役をつとめるかはわからない．

セセリチョウでも，私はたやすく，イチモンジセセリ，コチャバネセセリ，キマダラセセリ，ヒメキマダラセセリ，ダイミョウセセリ，ホソバセセリ，アオバセセリなどの代役を名ざすことができるように思う．

ただ香港にも，もちろん特有のものがある．ヒョウモンや *Zephyrus* がいないというのと反対に，ここではちよっとミヤマシロチョウをおもわせる優雅な *Delias* の1種がある．それから，ものやわらかに樹間や草原を舞うマダラチョウ類が特異的である．すなわちスジグロカバマダラ，ツマムラサキマダラ，コモンアサギマダラの類．

そしてこの辺が，日本と香港（つまり南シナ）の蝶の類型をきめる役割をはたすグループではなかろうか．蝶の種類のすこぶる豊富な西シナでは *Lethe* の類，さらに南へ下ると，マライ，インドネシアでは *Euthalia*, *Arhopala* の類が優先的なグループであるが，この中心を遠くはなれて，アジア大陸の東端をながめると，サガレン（カラフト）から日本にかけて，優先種のグループは *Brenthis-Argynnis-Papilio* と変り，南九州や本州の南半では類型は *Argynnis-Papilio* 型から *Papilio* 型に移る．そしてここ香港でも，優先種はやはり *Papilio* 類である．これは種類の数も個体数も，つまり全生産量が，他の蝶よりも圧倒的に多い．そしてそれにつぐものが *Danaus* などのマダラチョウである．これはまさに，私の前の結論で，このアジア大陸の周辺的性格が，*Argynnis*, *Papilio* につづいて *Danaus* の優先にひきつがれてゆくということになっていたのと思いあわせると，まことにあざやかな具体化であるといわねばならぬ．

およそここで問題になった属，*Argynnis*, *Papilio*, *Danaus*, それに *Lethe*, *Euthalia* などは，最近細分され，または近く細分される運命にあるのだろうが，その分類学的な統一性から見れば，今ここにいった考えは，むりなものではないと思う．

このように見てくると，私が香港の蝶相を，本質的に日本のそれと同じものと感じたのは，むしろ当然のことと思えるのである．それは *Argynnis-Papilio* ないしは *Papilio* 型と *Papilio* ないしは *Papilio-Danaus* 型との差をもつが，いづれも西シナを中心とする蝶相の周辺的類型をもつ．それが冬期により寒い日本と，それほど寒くない香港とで，表面的に現われる種類の差は明瞭であっても，基本的性格はすこしも変っていないわけである．このように書くと，いかにも大したことではないようだが，しかし実際に採集にでて見れば，とるものとるものみな目新しく，どうせ大したものはとれぬにしても，外国人にとってはまことにたのしい三回の採集行ではあった．

(31. VIII. 1955 Singapore にて投函)

日本鱗翅学会会報 „蝶と蛾"
日本鱗翅学会
大阪市東区今橋3丁目18 緒方病院内
振替口座京都15914番 電話北浜(23)3255 代
1955年9月25日

Published by
The Lepidopterological Society of Japan
c/o OGATA HOSPITAL, No.18, 3-chome,
Imabashi, Higashiku, Osaka, Japan.
25. Sept., 1955